

長岡 あーかいぶす 第 6 号

編集・発行／長岡市立中央図書館文書資料室

<http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm>

あの日のまま、写真の中で止まった時間 ～時計が刻んだ震災の記憶～

平成 16 年 10 月 23 日に発生した新潟県中越大震災。その発生時刻である午後 5 時 56 分を指して止まっている時計、落下した衝撃からガラスが割れてしまった時計…。すべて長岡市内の学校で保存されていた写真です。どれも地震の揺れの強さを物語っており、私たちの記憶を鮮やかに呼び起こします。



新潟大学教育人間科学部
附属長岡中学校

長岡市立深沢小学校

学校法人中越学園
中越高等学校

長岡市立六日市小学校

ミャンマーを襲ったサイクロンや中国の四川大地震と、大規模な自然災害が相次いで発生しています。テレビや新聞の報道を見ていると、4 年前の 7・13 水害や中越大震災、そして昨年の中越沖地震の光景がありありとよみがえってきます。

文書資料室では、災害により経験したことや学んだことを次の世代に伝えたいと考え、「災害アーカイブス」として災害・復興に関する資料の収集を行っています。昨年度は、長岡市内の学校の資料収集に力を入れ、34 の小学校、13 の中学校、4 つの高等学校、さらに養護学校と聾学校あわせて 53 校から多くの資料を寄贈していただきました。学校の資料の特色としては、児童・生徒・保護者への配布物や職員の対応をまとめた文書・文集、そして被害状況や避難所の様子を写した 4,000 枚にも及ぶ写真があげられます。上の 4 枚の写真も各学校の職員が撮影したものです。

附属長岡中学校と深沢小学校（左側の 2 枚）の時計はほぼ中越大震災発生時間で止まっています。また、中越高等学校の時計（左から 3 枚目）が示しているのは、同じ日の午後 6 時 34 分に起こった 3 度目の大きな地震が発生した時刻です。

ところが、右側の六日市小学校の写真を見ると、時計の針が 5 時 50 分を示しています。地震が発生したのは 56 分のはずなのに…！？その理由は、この写真とともに寄贈していただいた学校だより「かなぐら」平成 16 年度 8 号（11 月 12 日発行）を読むとわかります。実は「もともと時計が 6 分遅れていた」のだそうです。

現在、文書資料室では、これらの写真や学校だよりを公開するための作業を進めています。「災害アーカイブス」の第 1 弾として、7 月下旬に学校の資料のほか、避難所の資料、7・13 水害が発生した平成 16 年 7 月以降の新聞（8 紙）を公開する予定です。新聞は、見やすいように 1 ヶ月分を 2 冊に分けて製本してあります。公開資料の概要や閲覧方法等はホームページでもお知らせします。さらに、10 月には第 2 弾として刊行物や市役所の資料などを公開する予定です。

皆さんの身近に災害・復興に関する資料がありましたら、ぜひお知らせください。メモやチラシのようなちょっとしたものでも、災害・復興を伝える立派な記録になります。（薙澤 梓）



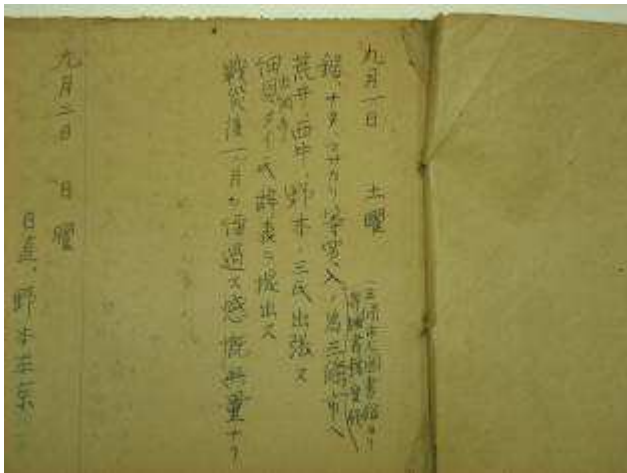
歴史的公文書は語る(1)

互尊文庫の戦災復興

文書資料室では、長岡市の保存年限が満了した文書や合併市町村の文書を「歴史的公文書」として整理・保存する作業を行っています。このコーナーでは、長岡市政の歩みをこれらの「歴史的公文書」からたどります。今回は、平成 19 年度に整理を行った市立互尊文庫文書 687 点の中から戦災復興に関わる公文書をご紹介します。

「戦災後一ヶ月ヲ経過ス、感慨無量ナリ」

大正記念長岡市立互尊文庫は、昭和 20 年(1945)8 月 1 日、蔵書を疎開させるために梱包したその日の夜、奇しくも空襲に遭い、建物は全焼、蔵書の全てを焼失します。9 月 1 日から始まる「日誌」には、終戦後わずか 2 週間で、復興に向けて力強く立ち上がった当時の職員の手紙が記されています。



▲大正記念長岡市立互尊文庫「日誌」(昭和 20 年 9 月)

「日誌」の中には、他に「新潟日報紙上ニ本館ノ十一日ヨリ開館ニ就テノ記事(中略)掲載サル」「本館敷地内の町内用防空壕を(中略)取壊す」等、日々の記述量は決して多くありませんが、終戦後の慌しさの中で、少しずつ復興して行く姿を読み取ることができます。

「復興ノ精神的の一助ト致シ度キ存念ヲ以テ」

「互尊文庫復興費援護ニ関スル申請」には、具体的な復興の状況が記されています。「翌二日ヨリ館長外職員全部集合、是ガ後始末ニ従事スル」「幸ニモ第二書庫ハ外郭ヲ残セシヲ以テ(中略)焼残リノ鉄梯子ヲ利用シテ二階ニ架シ(中略)此処ヲ仮事務所トシテ復興事務ヲ採レリ」。

焼け跡に急ごしえの閲覧室に、国民学校から借り受けた机や椅子、三条図書館・日本互尊社・市内有志から約 3,000 冊の図書の寄贈・寄託を受け、9 月 11 日、互尊文庫は開館しました。

なぜこんなにも開館を急いだのでしょうか。公文書の中にその理由が書かれています。

「当時長岡ハ全焼ノ後トテ何物モナク、実ニ索莫タル焼跡ナレバ、長岡市民ニ多少ナリトモ慰安娯楽ヲ提供シ、復興ノ精神的の一助ト致シ度キ」。

互尊文庫が当時の長岡市民にどんなに親しまれていたかを痛感させられます。そして、空襲を受け、自身も深い悲しみと喪失感を抱きながらも、懸命に使命を果たそうとする職員の姿勢に感動を覚えます。廃墟からの出発には、多くの困難があつたに違いありません。今日まで変わらず愛され続ける互尊文庫の姿に、人々の思いと復興への努力を、改めて感じました。

大正記念長岡市立互尊文庫が野本互尊の寄附により開館してから今年で 90 年。

節目の年に温故知新の気持ちを持って振り返ってみたい公文書です。

(桜井奈穂子)



合併市町村の公文書整理

～今年度は栃尾・小国・山古志支所で実施～

文書資料室では平成 19 年度から 3 年計画で、合併市町村の公文書の整理・保存作業を行っています。合併市町村の保存年限の経過した歴史的に価値のある公文書を選別し保存する取り組みです。昨年度は、与板・三島・寺泊・越路支所の約 5,500 点の公文書の整理を終えました。地域ごとの特色に留意して、丁寧に作業を進めていきたいと考えています。



(古川絵理)



▲栃尾支所での選別作業(5月21日)

縄文文化を象徴する資料として著名な「火焰土器」(国重要文化財)。長岡市の科学博物館(柳原町)で展示されているこの土器を復元したのは、考古学者・中村孝三郎である。

中村は明治43年(1910)、三島郡関原町(現長岡市)に生まれた。石器を収集していた父直次郎の影響もあって、幼い頃から近隣の遺跡に親しんで育ったという。小学生の時、不治の結核性骨膜炎にかかり、進学を断念。筆職人になるが、病に倒れ廃業してしまう。しかし、その間に火焰土器の発見者である近藤篤三郎氏の助手を務め、考古学への関心をさらに高めていった。

昭和26年(1951)、長岡市の悠久山に科学博物館が開館し、中村は考古部長(嘱託員)に迎えられた。当時すでに40歳を過ぎており、周回後れの考古学者としてスタートした中村であったが、その遅れを取り戻すかのように、怒濤の勢いで発掘を敢行した。

まず、昭和26年の長岡市藤橋遺跡の発掘調査を皮切りに、昭和31年には中魚沼郡津南町卯ノ木遺跡の発掘で、当時県内最古の縄文土器であった押型土器群を発見。さらに翌32年には同町貝坂遺跡を調査し、県内で初めて旧石器時代の石器群を発掘した。

特に昭和30~40年代には、信濃川流域の旧石器時代や縄文時代の遺跡を対象に、新潟県の考古学研究の基礎となる重要な調査を次々に手がけた。代表的な遺跡として、旧石器時代の津南町楢ノ木平遺跡、三条市中土遺跡・御淵上遺跡、魚沼市月岡遺跡、縄文時代では津南町泉龍寺遺跡、長岡市山下遺跡・馬高遺跡・三十稲場遺跡・朝日遺跡・千石原遺跡・根立遺跡、三条市赤松遺跡などがある。

その一方で、遠く離れた阿賀野川流域にも目を向け、昭和33~37年に東蒲原郡上川村(現阿賀町)の小瀬ヶ沢洞窟と室谷洞窟を発掘した。この調査によって、それまで知られていなかった縄文時代最古(草創期)の遺物を発見し、日本考古学史に輝く多大な成果を収めた。

現代の考古学では、遺跡の発掘はマスコミで取り上げられ脚光を浴びることも多いが、中村が発掘に奮闘していた当時の関心はけっして高くはなかった。調査にかかる経済事情は極めて厳しく、中村はしばしば病苦にも悩まされていたが、考古学への情熱と闘志をもって、困難を乗り越えてい



▲小瀬ヶ沢洞窟の石器図版(『越後の石器』)

ったのである。その経過は中村の半生記である『古代の追跡』(講談社)に詳しい。

調査や研究の成果は数々の報告書や論考として刊行され、先史時代の解明に大きく貢献した。それらの業績により、吉川英治文化賞(昭和54年)など数々の栄誉に輝いている。また、中村は近藤家の遺志を継いで「火焰土器」を復元するなどして、その素晴らしさを世に伝え、出土地である馬高・三十稲場遺跡の保存にも尽力した。

平成6年(1994)、中村は84歳で発掘に賭けた生涯を閉じた。掘り出したモノ=遺物で勝負する中村の考古学とは、「考えては掘り、掘っては考える、シャベルの哲学」であった。

平成8年、関原町の自宅に残された膨大な遺品は、ご遺族のご厚意により、「中村孝三郎資料」として長岡市に寄贈された。中村の著作類・原稿類のほか、発掘の写真類、発掘用具、中村家代々の遺物など、考古学史上の貴重な記録である。これらの資料群は、今後、史跡「馬高・三十稲場遺跡」に隣接して整備されるガイダンス施設(考古資料館)で活用されることになるだろう。

(長岡市立科学博物館 小熊博史)

【参考文献】

- 中村孝三郎 1970 『古代の追跡—火焰土器から蒼い足跡まで』 講談社
 - 中村孝三郎 1995 『越後の発掘遺跡—思い出の史蹟・思い出の人々—』(長岡市史双書No.30)
 - 長岡市立科学博物館 1998 特別展図録『越後長岡の考古学者・中村孝三郎の軌跡』
 - 小熊博史 2007 『縄文文化の起源をさぐる—小瀬ヶ沢・室谷洞窟—』(遺跡を学ぶNo.37) 新泉社
- ※絶版の本もありますが、いずれも長岡市立中央図書館等で読むことができます。

文書の虫 ～テーマ 長岡藩の藩主と藩士～

「本の虫」ならぬ「文書（もんじょ）の虫」が増えることを祈りつつ、
テーマに関する文書と参考文献を所蔵資料の中からご紹介します

●長岡藩士秋原家に伝わった文書

秋原家は、長岡藩主牧野家の三河以来の家臣です。代々、郡奉行・御吟味奉行などを務め、禄高は110石から160石でした。長岡藩士秋原家文書は平成20年1月、ご子孫から文書資料室へ寄託されました。御用状・感状など110点の文書から構成されます。
(小林良子)

牧野家の家紋「丸に三ツ柏」がある端切れです。文書と一緒に保管されていました。秋原家の当主が大切に伝えたものでしょうか。



本文の現代語訳
殿様や皆々様におかれましては、ますますご健康でござります。機嫌の良いこととお喜び申し上げます。さて、このたびは、素晴らしい思召し召しで、私に御足軽頭弓組の支配を命じてくださり、願ってもない幸運であると思っております。この御札を申し上げますため、お手紙を差し上げます。恐れかしこみ、謹んで申し上げます。

解説
一筆啓上仕候、殿様・上々様倍御機嫌能被成御座恐悦奉存候、然者今般私儀結構成御意之上、御足軽頭弓組支配被仰付難有仕合奉存候、右為可御札申上捧愚札候、恐惶謹言
秋原伊右衛門
七月廿三日
牧野頼母様
稲垣太郎左衛門様
牧野主馬様
深津金右衛門様
倉沢又左衛門様

長岡藩士の名簿と由緒書

～家臣の名簿（分限帳）や戊辰戦争の戦死者名簿、由緒書を活字にした長岡市史双書です～

- ・ No.15 『長岡藩政史料集(2)家中編』(蒼柴神社蔵「諸士由緒記」、藩士589家の由緒、索引付き)
- ・ No.23 『長岡藩政史料集(4)長尾平蔵収集長岡藩史料』(「明治二年長岡藩士族総名順」他)
- ・ No.31 『長岡藩戊辰戦争関係史料集』(「長岡藩戦争之記」「長岡藩戊辰各隊長書出」他)
- ・ No.35 『長岡懐旧雑誌』(文久2年「御家中総名順」、長岡藩士卒死傷之人員)他)
- ・ No.41 『長岡藩政史料集(6)長岡藩の家臣団』(長岡藩の主な分限帳13冊を収録、索引付き)
- ・ No.43 『再興長岡藩史料集』(「土族並菩提所寺院従前俸禄帳」)

※文書資料室・市内各書店で頒布中 (No.15・31・41は品切れ)。市内の図書館で閲覧できます。

●親子二代の絵師・片山翠谷

片山翠谷家文書は、幕末に活躍した絵師・片山翠谷家の家伝文書（1,631点）です。

片山為右衛門(1786～1846)は、新潟や京都などで活躍した五十嵐浚明とその高弟清水維明に絵を学んだといわれ、翠谷（初代）と号しました。

写実的な農耕図や人物画、城下の風景や風俗を描いています。「長岡城下年中行事図絵」（長岡市立中央図書館蔵）は代表作です。俳諧もよくし、応響・後日坊・魯英の号を用いています。

養子の修徳(生年不詳～1879)は、翠谷（二代）の号を継ぎ、明治維新以降も絵師として活動しました。片山翠谷家文書には、人物画の顔や手、稚児や老人など、親子二代にわたる作品の下絵が残されています。

ところで、為右衛門（初代翠谷）は画業のかたわら、町同心を務めました。火災の対応、夜回り、犯罪者の捕縛などの職務に従事しています。親子二代の片山翠谷の絵から感じる親しみやすい画風は、城下に暮らして、人々の安全を守った為右衛門ならではのものかもしれません。

（稲垣美知子）



▲片山翠谷が描いた人物画

袴を着て書物を読む武士の姿が描かれています。作者は片山翠谷の初代か二代かはっきりしません。左下に彩色のない人物や石灯籠・はさみのスケッチがあり、依頼された肖像画の草稿のような雰囲気です。

【参考文献】

- 長岡市 1998 『ふるさと長岡の人びと』
- 本山幸一 2007 『越後長岡藩の研究』所収「長岡町同心の存在形態」 高志書院

●若殿様のお風呂の薪と桶



古志郡片田村で桶屋を営んだ橋本家の文書です。江戸時代から昭和初期までの桶の商いや材木の仕入れに関する文書 410 点で構成されます。

写真の文書には、若殿様・御新造様（奥様）・御姫様のお風呂の薪や、手水湯用の手桶として松の材木を納めたことが記されています。藩主とその家族の日常生活がうかがわれます。

（小林良子）



長岡藩片文書の面影

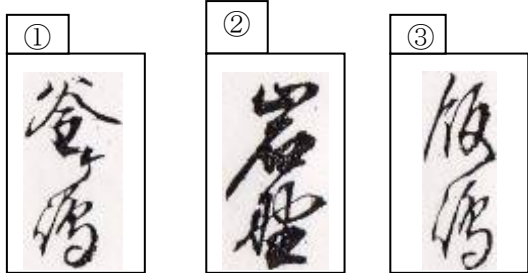
長岡城内に保管されていた藩の記録（藩庁文書）は残念ながら現存しません。戊辰戦争、長岡空襲という二度の戦災により失われたと考えられています。

しかし、藩庁文書の面影は様々な文書からたどることができます。例えば、村々の庄屋家の「御用留」や安禅寺に伝わる「御用記」には、藩からの通達などが書き留められています。牧野家の家譜には、藩主の事跡を示す文書が添えられています。また、明治初年の「長岡来状別紙」（長岡市立中央図書館蔵、市史双書No.43 口絵参照）は「長岡藩」銘のある罫紙に記されています。

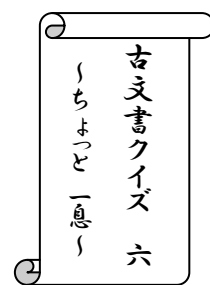
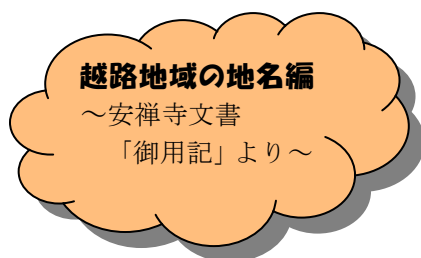
高田藩主榊原家の膨大な藩日記（花岡公貴「榊原藩文書」と藩日記について）『新潟県立文書館研究紀要』第9号参照）などに比べると量的な差異を克服することは難しいのですが、様々な面影を重ね合わせ、長岡藩の文書管理にも注目しながら、藩庁文書の復元を試みることは可能かもしれません。



（田中洋史）



古文書の読みと住所・氏名・電話番号を、葉書・FAX・メールで文書資料室へお送り下さい。全問正解者から抽選で5名の方に粗品を進呈します。



平成20年9月1日(月)必着です。なお、当選は粗品の発送をもってかえさせていただきます。
【前回の答え】①関東町 ②小曾根 ③左近

《新たに公開した所蔵資料一覧》 ※寄贈・寄託順。保管場所の都合で当日閲覧できない資料もあります。

- ・長町河内家文書(18点、近世・近代、清水誠一氏寄贈)
- ・鷺尾家文書(771点、近代・現代、雑誌『青淵』『互尊』、石油関係資料、鷺尾達雄氏寄贈)
- ・三島上条町内会資料(25点、近代・現代、上条青年団文庫蔵書、三島上条町内会寄贈)
- ・古志郡三之宮村佐藤家文書(1,881点、近世～現代、三之宮村文書、佐藤秀市氏寄託)
- ・古志郡浦瀬町林家文書(141点、近代・現代、昭和初期の教科書等、林由治氏寄贈)
- ・長岡藩士秋原家文書(110点、近世、秋原富美子氏寄託)
- ・古志郡山本村浦瀬地租合計簿(3点、近代・現代、横山真一氏寄贈)
- ・三島郡朝日村松井家文書(541点、近世～現代、渋海川の改修絵図・誠意塾関係他、松井賢行氏寄贈)
- ・三島郡来迎寺村永井家文書(228点、近世～現代、国書・漢籍・教科書等、永井重信氏寄贈)
- ・刈羽郡小国町山野田木我家蔵書(480点、近代・現代、哲学・自然科学等、木我文雄氏寄贈)
- ・庭訓往来(2点、近世、中野武夫氏寄贈)
- ・新選日本節用(1点、近代、片桐雅夫氏寄贈)
- ・齋藤迪信資料(1,077点、近世～現代、書道資料・石碑揮毫下書き・遠山夕雲顕彰資料、齋藤朝子氏寄贈)
- ・大積公民館文書(113点、近世・近代、国書・漢籍・教科書類、大積コミュニティセンター寄託)

●開催しています！情報交換会

昨年12月から長岡市立科学博物館、長岡市立中央図書館、同文書資料室の歴史資料に携わる職員が集まって、情報を交換する会を開いています。この試みは、中越大震災や市町村合併で歴史資料を取り巻く環境が大きく変化していることに対応し、博物館と図書館・文書資料室で定期的に情報交換ができないかという科学博物館からの提案がきっかけでした。集まりは不定期ですが、これまでに3回開催し、各担当者の話に大いに刺激を受けています。

新しい取り組みにもつながりました。それはレファレンス情報の共有が重要という3月の情報交換会での話し合いから、照会や依頼事項をまとめた「文書資料室情報メール」を月1回作成し、配信するようになったことです。

今後は情報交換だけでなく、所蔵資料の情報共有や整理方法の検討、各種展示会での協力などについても意見交換し、三者の連携を深めていければと考えています。



(金垣孝二)

《編集後記》▽「災害アーカイブス」の資料収集で多くの学校を訪問しました。雪のため途中で道に迷ってしまうなど大変なこともありましたが、先生方のご協力によりたくさんの貴重な資料が集まりました。7月の公開をどうぞお楽しみに。(薙澤)▽4月の人事異動で星純子主査が寺泊支所地域振興課へ転出、古川絵里主事が新しくスタッフに加わりました。▽文書資料室は今年度開室10周年を迎えます。当初は市史編さん事業の継承が大きなテーマでしたが、災害・市町村合併など新たな課題が加わりました。スタッフ一同、10年間の歩みを土台にして、社会や時代のニーズに応えながら、20周年に向けた積み上げを着実に進めていきたいと考えています。(田中)

平成20年6月1日発行

編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室

スタッフ：金垣孝二、古川絵理、稲垣美知子、小林良子
桜井奈穂子、田中洋史、薙澤 梓

〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町3-1-20

(長岡市立互尊文庫2階)

Tel.0258-36-7832、Fax0258-37-3754

E-mail: monjo@nct9.ne.jp